



平成 26 年度
きのくに共育コミュニティ
実践事例集

和歌山県教育委員会

目 次

I 県内の特色ある取り組み

- ◆事例① 「読み聞かせで読書に興味をもって創造力・学力アップ みんな顔見知りになろう」
(海南市大東地域共育コミュニティ本部) 1
- ◆事例② 「人が育ちあう共育のまちづくり」
(橋本市紀見東地域共育コミュニティ本部) 3
- ◆事例③ 「プロが教えるとおきの子育て講座」
(御坊市共育コミュニティ推進本部) 5
- ◆事例④ 「高めよう ふるさと大塔 みんなの力で！」
(田辺市大塔地域共育コミュニティ本部) 7
- ◆事例⑤ 「地域と共にある学校、学校でつながる地域の“わ”」
(田辺市中芳養地域共育コミュニティ本部) 8
- ◆事例⑥ 「学校・家庭・地域の協力」
(新宮市共育コミュニティ推進本部) 9
- ◆事例⑦ 「学校支援から地域支援へ」
(九度山町地域共育コミュニティ本部) 11
- ◆事例⑧ 「ふれあい共育・つながる地域」
(紀美野町地域共育コミュニティ本部) 13
- ◆事例⑨ 「地域で子供を育てる！」
(有田川町地域共育コミュニティ本部) 15
- ◆事例⑩ 「子供たちを見守り・育てていく地域づくり」
(串本町地域共育コミュニティ推進本部) 17

II 共育コミュニティに係る研修会

- ◆研修会① 平成 26 年度第 1 回きのくに共育コミュニティ研修会 19
- ◆研修会② 平成 26 年度第 2 回きのくに共育コミュニティ研修会 19
- ◆研修会③ 平成 26 年度「放課後子どもプラン」教育活動推進員・クラブ指導員等研修会
. 20
- ◆研修会④ 平成 26 年度きのくに“共育”実践交流会 20

はじめに

「子供は未来」です。

子供たちが生き生きと学び、自信と誇りを持ち、健やかに成長することは、私たち県民すべての願いです。

しかし、近年、子供を取り巻く環境は極めて深刻な状況にあり、基本的な生活習慣の乱れや規範意識の低下など、多くの課題が指摘されています。

かつて地域は、人と人が顔を合わせ、互いに支え合い、「生きる力」を習得する場でありました。しかし、今日、親が子育てを学ぶ機会の喪失や、地域活動に参加する住民の減少などにより、家庭や地域の教育力の低下が顕著になってきています。

県教育委員会では、「未来を拓くひたむきな人間力を育む和歌山」の実現をめざし、平成20年度から市町村教育委員会との連携のもと、子供を豊かに育むことをねらいとし、人と人とのつながりを再構築することをめざした「きのくに共育コミュニティ」の取り組みを進めています。県内各地に形成された「地域共育コミュニティ」では、「子供のため」、「子供を中心」を合い言葉に、様々な活動が行われており、活動を重ねる毎に、学校・家庭・地域が固い絆で結ばれ、地域全体の教育力が高まっていると実感しております。

この事例集は、そういった県内の特色ある実践についてまとめたものです。実践を進める中で得られた子供の成長や地域のつながりなど、成果を広く共有し、今後、各地域の取り組みを推進していく上での参考にさせていただき、それぞれの地域の特色を生かした共育コミュニティの取り組みが、さらに充実することを期待します。

最後に、本事例集の発刊にあたり、御協力いただきました関係各位に対して、厚く御礼申し上げますとともに、今後も、各地域において共育コミュニティの取り組みが益々推進されていくことを心から願っています。

和歌山県教育委員会

教育長 西 下 博 通

I 県内の特色ある取り組み

読み聞かせで読書に興味をもって創造力・学力アップ みんな顔見知りになろう

1 海南市大東地域共育コミュニティ本部

2 取り組みの具体的な内容

(1) 図書ボランティア

① 活動の内容

平成 22 年度より月 2 回のペースで図書ボランティアを行っており、大東地域において共育コミュニティ事業を開始した平成 24 年度からは、共育コミュニティ事業の一つとして現在も活動している。

普段は本や本棚の修繕、本の整理を行い、大休憩には読み聞かせを行っている。(図書ボランティアは地域の方々や保護者で、毎年 8～10 人)

② 活動の成果

児童が読書に関心を持ち、自ら読書をする機会をつくっている。

毎回読み聞かせにきてくれる児童(低学年が中心)が出てくるなど、読書に対する興味をもたせることができている。

③ 児童生徒・保護者・関係者・地域の方々などの感想

「じっくりと人の話を聞くなど、読書に対する姿勢・人の話を聞く態度がよくなりました。」(図書ボランティア)

(2) 共育懇談会(共育ミニ集会)

① 活動の内容

保護者や地域の方々、教職員等約 100 名により「みんな顔見知りになろう」をテーマとした交流会を開催した。交流会では参加者を 10 グループに分け、各グループにおいて、地域ぐるみの子育てを目標として、子供に対する自由な意見を出し合った。



② 活動の成果

交流会の中では、登下校の安全確保、あいさつ、地域のつながりや地域の活性化、津波対策等、様々な話題で話し合いができ、保護者と地域の方々が近づくことができた。

③ 児童生徒・保護者・関係者・地域の方々などの感想

「これからの地域の色々な問題や心配していることを話すことができ、その解決策を共に考えることもできて嬉しかったです。」（保護者・地域の方々）

3 事業を実施して

地域の方々に図書ボランティアとして加わってもらうことで、小学校に対して理解を深めてもらうと共に、児童たちも地域の方々と接点をもつことで相互に関係を深めつつある。今後は、地域の色々な方々に参加していただき、多くの人に関わってもらえる場となるように活動を広げたい。また、低学年児童だけでなく、多くの児童に興味をもたせられるよう選書の工夫もしていきたい。一人でも多くの児童が、本の楽しさを知り、本を好きになってくれることを願っている。

共育懇談会（共育ミニ集会）は、地域の方々の参加があったことで、学校と保護者という二者だけの話し合いだけではなく、地域ぐるみで子供を育てていこうという観点で有意義な話し合いができ、好評を得ることができた。

4 問い合わせ先

海南市教育委員会 生涯学習課

海南市下津町丸田 217- 1

Tel:073-492-3349

Fax:073-492-3390

Mail:syogai@city.kainan.lg.jp

人が育ちあう共育のまちづくり

1 橋本市紀見東地域共育コミュニティ本部

2 取り組みの具体的な内容

(1) 英語部でのサポート

① 活動の内容

紀見東中学校で、平成 25 年度から実施している。通常 5～10 人の生徒が英語部で活動しており、会社を退職された、英語が堪能な地域の方に依頼し、英語発表会でのスピーチの発音や、授業の文法について教えてもらっている。

② 活動の成果

発音など個別に対応するには顧問の先生のみでは難しいので、とても助かっている。

③ 児童生徒・保護者・関係者・地域の方々などの感想

「普段接することのない年代の方と生徒が、楽しく交流することができました。」(教職員)

「発表会に向けて、一生懸命頑張っていました。」(地域の方)

「発表会後も英語で日本の昔話を発表できないか等、生徒がもっと意欲的に取り組んでもらえるようにと、色々考えています。」(地域の方)

「英語にもっと興味をもってもらえるよう、コミュニケーション能力を伸ばしてほしいです。」(教職員)



(2) ふる里よいとこ探しナチュラルブレイク 「2分の1成人式」

① 活動の内容

紀見東中学校区幼稚園児・保育園児・小・中学生による「2分の1成人式」を開催。小・中学生による「こどものメッセージ」の発表や幼稚園児・保育園児によるお祝いの歌を披露した。

② 活動の成果

橋本市杉村公園の自然の中に住民が集い、自然環境の大切さを学びながら、親睦を深め交流の輪を広げることができた。

2分の1成人式を迎えた4年生の児童たちによる、「十年先の未来にも」「大すき城山」「十年後の境原を考える」。自然豊かで笑顔の絶えない、よりよい地域であるために、自分たちにできることをやっていきたいとメッセージを発表。子供たちを含め、改めて紀見東地域住民の願いとして、共有することができた。

③ 児童生徒・保護者・関係者・地域の方々などの感想

「長年実施している事業、『ふる里よいところ探しナチュラルブレイク』に『2分の1成人式』を組み込むことで、子や孫を含め紀見東中学校区に住む子供たちの成長を祝っていただくよい機会となりました。」(関係者)

「『2分の1成人式』は、自由参加であったにもかかわらず、大勢の園児や、7割を超える4年生の参加がありました。」(関係者)

「中学校生徒会のみannaによる司会により、中学校区の園児・児童・生徒がこのイベントにかかわることができ、みんなでつくり上げた達成感がありました。」(関係者)



3 事業を実施して

子供たちにとって、地域の方々とのふれあいを通じ、見守られている安心感を得ることができ、地域を大切に思う気持ちを育むことにつながると思う。学校・家庭・地域が、子供たちを中心にそれぞれの立場で、また子供たちも地域の力になれるような取り組みとして、地道に活動していきたいと思う。

4 問い合わせ先

橋本市教育委員会 社会教育課

橋本市東家1-1-1

Tel:0736-33-6112

Fax:0736-33-2657

Mail:syougai@city.hashimoto.lg.jp

プロが教えるとおきの子育て講座

1 御坊市共育コミュニティ推進本部

2 取り組みの具体的な内容

(1) 絵本講座「イツ・こうたく・ワールド」

① 活動の内容

線を使わずに絵の具だけで描く独特のタッチをもつ絵本作家のよしながこうたく先生を迎えて、「思いやり」をテーマにした参加型ライブペイントや読み聞かせ体験を実施した。



② 活動の成果

「思いやり」をテーマにした参加型ライブペイントは、子供たちの独創性を高め、家族を含めた地域の絆をより一層強固なものにした。

③ 児童生徒・保護者・関係者・地域の方々などの感想

「よしなが先生はキャラクターのかぶり物を被り、オーバーアクションを交えながらユニークな語り口調で『思いやり』の教訓を分かりやすく読み聞かせていただき、子供目線にたった話の展開に大人も子供も引き込まれました。」(保護者)

(2) 親子でハートフルコミュニケーション講座

① 活動の内容

子供と親が円滑にコミュニケーションを図れるよう「子供の話を聞く」ことの大切さを学ぶとともに、子供たちの夢や希望を具体的に実現することを目的としたコーチング技術の習得をめざした研修を実施した。



② 活動の成果

多角的な視野にたったコーチングへのアプローチは子供の内的な成長を促すとともに、潜在能力を引き出すことを助長し、自発的な行動力を養うことに活用できる。

③ 児童生徒・保護者・関係者・地域の方々などの感想

「相手の話をまずよく聞き、話をするだけでスッキリするという何でもないことが人の気持ちを思いやる基本であることを学びました。」(参加者)

3 事業を実施して

家庭教育支援講座は家族の絆を強くすることは元より、同じ悩みを抱えた人の情報交換の場としても役立ち、社会（地域）の絆をも強くする手助けになり得ると実感した。

4 問い合わせ先

御坊市教育委員会 生涯学習課

御坊市藪 367

Tel:0738-23-5525

Fax:0738-24-0528

Mail:r-20994@city.gobo.lg.jp

高めよう ふるさと大塔 みんなの力で！

1 田辺市大塔地域共育コミュニティ本部

大塔地域共育コミュニティ本部では、「小中一貫教育」「学力向上」「ふるさと学習」を活動の3本柱として取り組んでいる。

2 取り組みの具体的な内容

(1) 選択交流学习

① 活動の内容

地域から講師を招き、大塔中学校の1年生と校区内の3小学校（鮎川・三川・富里小学校）の5・6年生が、「郷土の食」「大塔探訪」「生け花」「茶道」「グラウンドゴルフ」など、10のコースから選択し、異年齢、他校の児童生徒と学習を行い、交流を深めている。



② 活動の成果

小・中学校間の交流と小学校から中学校へのスムーズな移行、また地域の方から学び交流することを目的に行った。授業にあたっては、地域講師と教員と一緒に学習内容を構成し、小・中学校の交流だけでなく、児童生徒、そして教員と地域の方々との交流を深めることができた。

③ 児童生徒・保護者・関係者・地域の方々などの感想

「今まで体験したことのない、伝統やふるさとの文化に触れることができました。」
(児童生徒)

「地域の方と交流することができて、よかったです。」 (児童生徒)

「いつも子供たちに会えるのを楽しみにしています。」 (地域の方)

3 事業を実施して

これまでの各種アンケート結果からも、児童生徒の地域への関心は高いことがうかがえる。特に、中学生では、保育園との合同避難訓練や防災訓練等を通して、自分たちがふるさとを守るという意識も少しずつ育ってきている。保護者、地域の方々の積極的な協力のもと、小・中学校、公民館が協力して、心豊かな子供たちの成長と地域の暮らしにとって実りあるものとなるよう、今後も地域ぐるみで進めていきたい。



地域と共にある学校、学校でつながる地域の“わ”

1 田辺市中芳養地域共育コミュニティ本部

中芳養地域共育コミュニティ本部では、「子供の育成」「文化の伝承」「交流の推進」を3つの柱とした活動に取り組んでいる。

2 取り組みの具体的な内容

(1) 中芳養合同作品展

① 活動の内容

地域の文化力の向上と交流の促進を図るために、中芳養小学校体育館を会場に、「中芳養合同作品展」を開催した。

幼稚園・小学校・中学校の子供たちの作品と、公民館が呼びかけて集めた地域の方々の作品を展示した。公民館活動で行った焦がし絵教室の作品や、中学生が地域の老人会の皆さんと一緒にいった陶芸教室の作品など、作品展開催にあたり、子供と地域が関わるということを意識し、事業を実施した。

② 活動の成果

当日は約500点もの作品が集まり、延べ362名の来場者を楽しませた。

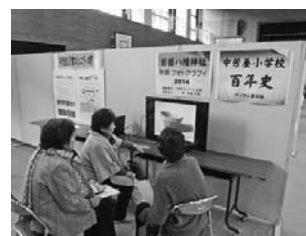
子供たちにとっては普段見ることのできない作品に触れるよい機会となり、出品された方にとっても、自分の作品を見ている地域の人や子供の様子を見て満足感を味わうことができた。

③ 児童生徒・保護者・関係者・地域の方々などの感想

「大きな作品から小さな作品までたくさんあって、勉強になりました。」(児童生徒)

「色々な作品があり、楽しめました。特に子供たちの作品は学年が上がるにつれて成長が感じられ、自分の子供の作品を見ているだけでは気づかないので、よかったです。」(保護者)

「子供たち、地域の人たちの作品をたくさん見ることができてよかったです。次回は自分も出展したいと思いました。」(地域の方)



3 事業を実施して

今年度初めての取り組みということで、事業企画、作品募集や会場設営など、手探りで事業を進めてきたが、各学校・公民館の担当で企画調整、打合せを複数回行い、企画を練り上げることができた。事業の実施により、学校・地域間のお互いへの関心が高いことが分かった。今後もこうした取り組みを継続させ、さらに地域と学校が一つになれるような事業を実施していきたい。

4 問い合わせ先

田辺市教育委員会 生涯学習課
田辺市高雄1-23-1
Tel:0739-26-4925
Fax:0739-25-6029
Mail:shougai@city.tanabe.lg.jp

学校・家庭・地域の協力

1 新宮市共育コミュニティ推進本部

2 取り組みの具体的な内容

(1) 校区クリーン作戦

① 活動の内容

新宮市内の城南中学校区、緑丘中学校区の2地域で実施する校区清掃活動。

中学校生徒会が中心となり、小学生、幼稚園児で班をつくり、地域の方々とともに、それぞれの班で決められたルートを清掃していく。

② 活動の成果

ボランティアとして参加している地域の方たちと協力していくことで、学校と地域のつながりができ、また、地域の方たちも子供たちの様子を知ることのできる機会になっている。

中学生は小学生以下の子供たちの見本となる立場であり、小学生以下の子供たちは自分も中学生の先輩のようになりたいという憧れの気持ちをもつなど、お互いにいい影響を与えている。

③ 児童生徒・保護者・関係者・地域の方々などの感想

「学校内では少しやんちゃな子が、クリーン作戦で小学生の前に立つと率先してゴミ拾いをしており、いい影響を受けています。」
(教職員)

「当日までは、共育コミュニティの方々とは話し合ったり、各ルートの確認をしたりしました。今までは一生徒としてクリーン作戦に参加していましたが、生徒会に入って、ちがう視点から見てみると、地域の色々な人がつながり合っていることがわかりました。」(学校生徒会役員)



(2) 王子ヶ浜小学校見守り隊

① 活動の内容

王子小学校から続いていた「見守り隊」を学校統合2年目にして復活させた。

地域の方5名を委嘱し(蓬莱地区と王子地区のそれぞれの公民館からの推薦)登下校時の児童の安全を見守っていただいている。

② 活動の成果

登下校時に通学路に立ってくれているので、不審者情報も少なくなってきた。子供たちを見守る活動なので、保護者からも感謝されている。

学校と地域が協同して取り組むので、それぞれの情報が入りやすくなり、学校運営がやりやすくなった。児童に声をかけていただくことによって、地域とのつながりができている。

③ 児童生徒・保護者・関係者・地域の方々などの感想

「交通安全面で不安があったが、見守り隊の方々が立ってくれているので、安心です。」(保護者)

「学校だけでなく、地域全体で子供たちを育てている実感がわいてきます。現在、学校の雰囲気もいいのも、見守り隊の方々の力も大きいと思います。」(教職員)

「朝、『おはよう』と声をかけてくれるので、気持ちがいいです。私も大きな声で『おはようございます』と言えるようになりました。」(4年女子児童)



3 事業を実施して

事業を長期継続し、今、小・中学生の子供たちが大人になった時も活動している息の長い活動にしていくことが重要と感じている。

4 問い合わせ先

新宮市教育委員会 生涯学習課

新宮市春日1-1

Tel: 0735-23-3366

Fax: 0735-21-5298

Mail: s-gakusyu@city.shingu.lg.jp

学校支援から地域支援へ

1 九度山町地域共育コミュニティ本部

2 取り組みの具体的な内容

(1) 学校の剪定作業

① 活動の内容

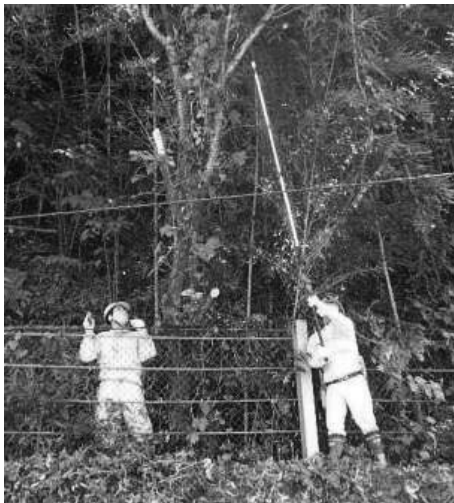
九度山町地域共育コミュニティ本部では、平成21年度よりNPO法人日本森林ボランティア協会の方々に協力依頼し、学校敷地内の木々の剪定作業を行っている。



② 活動の成果

教職員だけではできない規模の剪定作業をしていただき、とても助かっている。

また、校庭の美化が進んだことはもちろんだが、緑育活動でも森林ボランティア協会の方々に協力いただいているため、様々な方面から木々に親しむ活動ができるようになった。



③ 児童生徒・保護者・関係者・地域の方々などの感想

「高所の作業や、大きな木の伐採など、教職員ができないような箇所の剪定をしてくださるのでとても助かっています。」(教職員)

(2) 「リズムなぎなた」の指導

① 活動の内容

今年度、河根小学校において、九度山町教育委員会社会教育課角谷香織主事(第69回長崎国体なぎなた選手)と、大阪体育大学の学生2名に御協力いただき、「リズムなぎなた」の指導を行った。



② 活動の成果

「なぎなた」というスポーツに、競技としてだけでなく音楽に合わせて演武することで、子供たちや地域の方々にもより親しみを感じてもらった。

③ 児童生徒・保護者・関係者・地域の方々などの感想

「リズムに合わせてすることで、なぎなたのダイナミックな動きを表現し、また、みんな明るく元気よく演武し、ひとつのことをみんなで作る楽しみと喜びを感じてもらえたと思います。」(指導者)

「音楽に合わせて踊る『リズムなぎなた』の演武は初めての活動でしたが、運動会での発表に向けて、元気よく取り組んでいました。」(教職員)

3 事業を実施して



九度山町は、共育コミュニティの活動が始まる以前から地域の方々とのつながりが深く、共育コミュニティの活動が始まってからは、より一層地域の方々と深くつながってきたと感じている。

そのため、新しい事業は多くはないが、特にNPO法人日本森林ボランティア協会の方々は、剪定活動だけでなく緑育活動や中学校の総合的な学習などにおいても関わってくださっており、「森づくり」のサイクルとして子供たちが活動できている。

「リズムなぎなた」については、今までなじみの少なかった「なぎなた」を、競技として興味をもってもらうだけでなく、今回のような「リズムなぎなた」で、演武する子供たち以外の、演武を観る保護者の方々や地域の方々にも身近に感じてもらうことができたことは、平成27年度の国体に向け、地域の雰囲気づくりにもなったと感じている。

4 問い合わせ先

九度山町教育委員会 社会教育課

九度山町九度山 1190

Tel:0736-54-2019

Fax:0736-54-4670

Mail:s-nakano@town.kudoyama.lg.jp

1 紀美野町地域共育コミュニティ本部

2 取り組みの具体的な内容

(1) 地域の受援力を高めるために～「地域共催避難所運営訓練」を通して～

① 活動の内容

学校・保護者が、地区自主防災組織と共催して、町の協力のもと、生徒が地域の方々の避難者登録を行い、地域の方々や保育園児、小学生の「避難所運営ボランティア訓練」と「防災体験」を実施した。生徒が中心となり、「避難者登録訓練」「A E D講習・体験」「オイル缶鍋炊きご飯実演・試食体験」「紙芝居」「防災グッズ作り」「煙体験」「避難所仕切り等の避難所グッズ展示」「写真展示」等の、様々な体験の案内や説明等の運営を行う活動である。



② 活動の成果

地域の方 42 人、保育所 28 人、小学校 45 人、中学校 63 人、地区自主防災組織・役場関係者等 27 人の合計 205 人が一同に参加する訓練となった。中学生の「共助力」「地域参画」の意識を育むことができた。

③ 児童生徒・保護者・関係者・地域の方々などの感想

「昨年度は台風による警報発令のため中止になったので、今回実施できて本当によかったです。」(多数)

「学校と地域が連携し、地域の方々、保育園児、小学生児童も参加しての訓練、まさに地域と一体になった取り組みです。中学生が主体者となって活動している様子には大変感動しました。また、災害用のテントや段ボールの仕切り、長期保存用水などの展示もよかったです。実際に体育館でこの仕切りの中で寝ることが想像できました。」(関係者)



(2) きょういく井戸端トーク

① 活動の内容

保護者のみでなく、共育ボランティアの方々、町役場職員や校区の保育所・中学校

の職員、保護者、民生・児童委員、更生保護女性会等、地域を巻き込んで開催する。

全参加者が一堂に会して聴く講演と、小人数に分かれて自由に話し合うグループ討議の二本立てで行った。「井戸端トーク」とは、名前の通り気楽に本音を語り合える雰囲気をもった話し合いのことである。

② 活動の成果

前半の講義の内容を受けて、「地域の活性化」「大人のモラル」「地域と子供との関わりの薄さ」などが後半の「きょういく井戸端トーク」で話し合われた。立場も年齢も様々で、こういう機会がなければ集まることのできないメンバーで、膝をつき合わせて話し合えたのは大きな収穫である。



③ 児童生徒・保護者・関係者・地域の方々などの感想

「和気あいあいとした雰囲気、楽しい1時間を過ごせ、自分たちの地域の温かさ、つながりを強く感じることができました。全員がそれぞれの立場から、たくさんの意見を、本音で和やかに語ることができました。」(教職員)



3 事業を実施して

野上小学校で実施した井戸端トークは、地域の方から、児童の挨拶のよさを褒めていただき、学校職員の自信や励みとなった。また、学校を取り巻く地域が、立場の違いを超えて、学校や子供たちを大切にしている思いを肌で感じる事ができた。

美里中学校で実施した地域共催避難所運営訓練は、高齢化の進む地域で、中学生が「共助」として果たすべき役割が大きいことを痛感した。地域・保育所・小学校・中学校が一同に集まる訓練は、中学生に「共助」の力をつけ、地域参画意識を育て、ふるさとや周りの人々を思いやる気持ちを育てる。地域活性化のためにも、学校が中心になって地域と連携した取り組みを続けていきたい。

4 問い合わせ先

紀美野町教育委員会 生涯学習課

紀美野町動木 288- 4

Tel:073-489-5915

Fax:073-489-5400

Mail:syogai@town.kimino.lg.jp

地域で子供を育てる！

1 有田川町地域共育コミュニティ本部

2 取り組みの具体的な内容

(1) 図書ボランティア

① 活動の内容

有田川町地域共育コミュニティ本部では、平成 24 年度より、吉備中学校において、昼の休憩時間を利用して、図書ボランティアを行っている。ボランティアは、司書と協力しながら本の整理や本の紹介など、関心をもってもらえるように工夫をしながら生徒たちと交流を深めている。



② 活動の成果

活動当初は本の数も少なく、借りにくる生徒もほとんどいないような状態で、活動といえば、清掃と整理。たまに来る生徒との少しの会話で本当に寂しいものだったが、平成 25 年度に新校舎になり、図書室の環境が大きく変わった。今では、毎日たくさんの生徒たちが訪れてくれる。継続してボランティアに入ることにより、生徒たちから声をかけてくれるようになった。それによってボランティアの活動がやりがいのあるものになっている。

③ 児童生徒・保護者・関係者・地域の方々などの感想

「図書ボランティアが来てくれているおかげで、子供の図書室利用が以前より増えています。環境が整うと人が集まり、図書室がよいコミュニケーションの場となっているのではと嬉しく思います。」(保護者)

「ボランティアさんが話しかけてくれるので、こちらからも話しやすいです。本が整理されているので選びやすくなりました。迷ったときはおすすめ本を選んでいきます。」(児童生徒)

「ボランティアは、図書の整理、図書館の美化、生徒への声かけなど献身的に自ら仕事を探す姿勢で、本校を支えてくれています。また、生徒の細かい様子に目を配り、気になることを伝えてくれるのでありがたいです。」(教職員)

(2) 家庭科ミシン授業の手伝い

① 活動の内容

有田川町地域共育コミュニティ本部では、公民館の土曜教室の先生が、鳥屋城小学校において家庭科ミシン授業の手伝いを行っている。糸かけ、返し縫い、ミシンがけ、しつけなど、子供たちの横で個別指導を行っている。



② 活動の成果

進度の違う子供に個別に対応することで、全員がスムーズに作業することができた。指導者は、洋裁全般に詳しいので、子供たちから多くの質問が出て対応ができ、楽しくエプロン制作が行えた。

③ 児童生徒・保護者・関係者・地域の方々などの感想

「ミシンの使い方が難しかったけど、ボランティアの先生に教えてもらいながらしたら、分かりやすかったです。」(児童生徒)

「下糸がからまって困ったり、ミシンのトラブルなどがあったけど丁寧に教えていただいたので楽しいエプロン作りでした。」(児童生徒)

「一人ひとりに関わってもらえてありがたかったです。地域の文化祭に、子供たちが作ったエプロンを着けて、土曜教室の先生が指導されている裁縫教室作品展を鑑賞させていただきました。」(教職員)

3 事業を実施して

紹介した活動の他にも、登下校の見守り等地域の方々の協力によって子供たちは安心、安全な学校生活を送ることができている。今後も学校支援ボランティアへの登録を呼びかけ、隠れた人材の掘り起こしを進めていきたい。また、学校が地域のコミュニティスペースとなるように、ボランティア人材の活用を高め、健やかな子供の育成と、地域の教育力の向上を目指していきたい。

4 問い合わせ先

有田川町教育委員会 社会教育課

有田川町中井原 136- 2

Tel:0737-52-2111

Fax:0737-32-4827

Mail: n.syakaikyoiku@town.aridagawa.lg.jp

子供たちを見守り・育てていく地域づくり

1 串本町地域共育コミュニティ推進本部

2 取り組みの具体的な内容

(1) 小学校・中学校合同クリーン作戦

① 活動の内容

同じ校区の小学校と中学校合同での清掃活動に、地域の人に参加し、自分たちの住む地区に分かれて清掃活動を行う。



② 活動の成果

清掃活動をとおして、自分たちが住む近所の人同士が、あらためて交流を深める機会となり、その後、顔を合わせば挨拶を交わすような関係が築かれた。中学生は、各地区に分かれ、それぞれのグループにおけるリーダーとなって、参加していただいた地域の人にお礼を述べ、清掃するコースを先導するなど、自覚と責任を持って行動する姿が見られた。また、子供たちの環境美化とゴミの分別に対する意識が高まった。

③ 児童生徒・保護者・関係者・地域の方々などの感想

「子供たちが地域のなかで活動することで、地域を活気づけてもらっています。」(地域の方)

「活動についてもっと広報をして、コミュニティ活動がもっと広がっていくとよいと思います。」(地域の方)

(2) 地域ウォークラリー

① 活動の内容

小学生・中学生および地域の人がそれぞれグループになって、ウォークラリー等を行う。



② 活動の成果

学校統合によって広がった校区内でのウォークラリー等をおして、地域の人との交流を深めながら、地域のことを学び、再発見する機会となった。地域の人からは、子供たちを頼もしく、より身近に感じてもらえるよい機会となった。

③ 児童生徒・保護者・関係者・地域の方々などの感想

「参加させていただいて本当によかったです。子供たちが身近に思えました。」(地域の方)

「素晴らしい子供たちでした。こんなよい子供たちにしている学校が素晴らしいと思います。」(地域の方)

3 事業を実施して

串本町では、町内小・中学校 14 校すべてにおいて、それぞれ地域の実情に応じた共育コミュニティ活動を実践している。活動をおして、子供や学校と地域の人との相互理解が深まることで、子供たちが安心して安全に過ごせる環境が醸成され、子供や学校に係る課題について、学校、家庭および地域が協力して取り組もうとする雰囲気が高まっている。

4 問い合わせ先

串本町教育委員会 教育課

串本町西向 359

Tel:0735-72-0017

Fax:0735-72-1220

Mail:kyouiku@town.kushimoto.wakayama.jp

II 共育コミュニティに係る研修会

◆研修会① 平成26年度第1回きのくに共育コミュニティ研修会

○日時・場所・参加者 平成26年8月20日(水) 県民交流プラザ・和歌山ビッグ愛 参加者 74名

○講 演「和歌山の未来をひらく共育コミュニティ」

神戸大学大学院人間発達環境学研究所 神戸大学発達科学部 准教授 山下 晃一 氏

今の子供を取り巻く環境は極めて心配な状況であり、点数と順位だけではない本来の学力を身に付けさせていくことが大切である。生きる力、文化を生み出す仕掛け・仕組みこそ共育コミュニティである。生き方、学び、学力、教育、学校などを問い直し、大人が子供と共に育ち、変わっていく。シニア世代と子供が出会い、今の和歌山の限界を突破する新たな文化を生み出しているのではないか。それが未来につながる学びになっている。



○共育支援メニューフェア事例発表・講評

・事例発表

「和歌山県金融広報委員会の支援メニューを受けて」

広川町なごみ交流センター図書室

「女性の視点で防災を共育へ」

3W(わかやまウィメンズワッチタワー)

・講評

和歌山大学経済学部 教授 足立 基浩 氏

○グループワーク

・テーマ「今の地域・子供のことで気になること・心配なこと、期待すること・希望すること」

・進行 神戸大学大学院人間発達環境学研究所

神戸大学発達科学部 准教授 山下 晃一 氏

○共育支援メニューフェア

共育支援メニューフェアは、学校教育関係者・社会教育関係者等と企業・大学・NPO等各種団体及び行政機関等の出会いの場である。

○参加者の声

「『安心感のないところに本当の学びは生まれない。』という山下先生の話聞き、学校・家庭・地域で子供たちが思いっきり笑顔になれる。そんなまちになるようにと願う。」

◆研修会② 平成26年度第2回きのくに共育コミュニティ研修会

○日時・場所・参加者

【紀北】平成26年10月31日(金) 県民交流プラザ・和歌山ビッグ愛 参加者 35名

【紀南】平成26年11月10日(月) 和歌山県水産試験場 参加者 31名

○講 演「これからの学校教育を支える共育コミュニティづくりとは ～大阪府の取り組みより～」

阪南大学 非常勤講師 中村 有美 氏

現代の多様な教育問題を解決するためには、学校・家庭・地域が協働することが求められている。地域で子供を育てるためには、名前と顔が一致する家庭の集合体である地域社会を復活させ、地縁型コミュニティを形成することが重要である。和歌山県の地域共育コミュニティは、子供と大人が育つ場であり、困難な課題を低減させる力を持っている。子供の問題は地域の問題であると捉え、地域の大人が共に考えることが重要である。



○グループワーク

・テーマ「今日までの取り組みを振り返り、今後の活動のスローガンを考えよう」

・進行

阪南大学 非常勤講師 中村 有美 氏

○参加者の声

「先生のお話を聞いて、学校行事等へのボランティアさんたちの声をさらによく聞くように努力したいと思った。具体的な例を参考にしたい。」

◆研修会③ 平成26年度「放課後子どもプラン」教育活動推進員・クラブ指導員等研修会

○日時・場所・参加者

【紀北】平成26年6月29日(日) 岩出市総合保健福祉センター 153名

【紀南】平成26年7月13日(日) 田辺市ひがしコミュニティセンター 118名

○講演「こころを語る力を育てる」

社会福祉法人アトム共同福祉会理事長

和歌山大学地域連携・生涯学習センター客員教授 市原 悟子 氏

子供たちを健やかに育てるためには、何が必要なのか、共に考え、「こころを語る力」を子供たちにどのように身につけさせるのか。

日常生活の中で、「困る体験」「自分と違う個性に興味を示す体験」「自分を理解してもらった体験」「大切にされた体験」「ケンカによりお互いの違いを体験」など、数多くの体験を積み重ねることで、心優しい子供に成長していく。



○実践発表

「放課後子ども教室の活動について」

「共育支援メニュープログラムの実践について」

有田市教育委員会生涯学習課
和歌山県金融広報委員会

○参加者の声

「地域の人々の支援を得ながら、いろいろな取り組みを行うことは、とても大変なことだと思う。たくさんの大人が連携して子供たちを支えていくことは、今の子供たちが大人になったとき、地域に帰って来てくれることにつながると思う。」

◆研修会④ 平成26年度きのくに“共育”実践交流会

○日時・場所・参加者

平成27年3月1日(日) 情報交流センター ビッグ・ユニー 参加者172名

○トーク&コンサート「ありがとう この出会いを大切に」

シンガーソングライター 丸石 輝正 氏

○講演「今こそ、大人総がかりで子育てを」

神戸大学ESDコースコーディネーター 高尾 千秋 氏

今後の人口減少や戦争などの課題を解決するためには、教育により人を育てることが重要である。学校・家庭・地域が連携して教育を進めるために、子供を中心に人と人とのつながりを再構築し、また、新たなつながりをつくり出し、顔と名前の一致する人間関係を築かなければならない。そのためには、出会いを促す「アイデア」、「シカケ・キッカケ・コエカケ」が大切である。



○第1交流会【共育コミュニティ等】

- ・パネルディスカッション
- ・トークタイム

○第2交流会【家庭教育支援】(平成26年度スキルアップ子育て講座修了者)

- ・実践発表会
- ・子育てトーク

○第3交流会【地域ふれあいルーム・いきいき交流教室・放課後児童クラブ】

- ・実践発表会
- ・グループ協議